

京都府の施設果菜類におけるコナジラミ類の発生状況について

(令和4年調査結果)

府内の施設果菜類において、コナジラミ類(タバココナジラミ・オンシツコナジラミ)による被害が問題になっています。コナジラミ類は作物を直接吸汁して加害するだけでなく、トマトやキュウリのウイルス病を媒介するほか、排泄物上に黒いカビ(すす病)が発生します。そのため、府内の施設果菜類におけるコナジラミ類の発生状況を調査しましたので、その結果をお知らせします。

1 施設果菜類におけるコナジラミ類の発生状況

(1) 地域別のコナジラミ類の発生状況

令和4年6月から10月に、府内の施設トマト、キュウリ、トウガラシ及びナスにおけるコナジラミ類の発生状況について調べた結果、抑制栽培(9~10月)では半促成栽培(6~8月)と比較してタバココナジラミの発生が増加しました。また、南部地域(京都市以南)ではタバココナジラミが優占し、北部地域(亀岡市以北)ではオンシツコナジラミが優占しました(表1)。

表1 京都府における地域別のコナジラミ類の発生状況

地域	作型	調査ほ場数	コナジラミ類の発生ほ場の比率(%)			
			タバコのみ	オンシツのみ	混発	発生なし
北部	半促成	16	6.3	56.3	6.3	31.3
	抑制	15	6.7	33.3	26.7	33.3
南部	半促成	13	38.5	7.7	7.7	46.2
	抑制	10	90.0	0.0	10.0	0.0

(2) タバココナジラミのバイオタイプの構成比率

(1)でタバココナジラミの発生を確認したほ場からタバココナジラミを採取し、バイオタイプ(形態的に区別できず、遺伝的、生物学的特性が異なる系統)を調べたところ、全てのほ場でバイオタイプQの発生を確認しました(表2)。

表2 京都府のタバココナジラミ発生ほ場におけるバイオタイプの構成比率

地域	調査ほ場数	バイオタイプの構成比率(%)	
		Qのみ	QおよびB
北部	7	85.7	14.3
南部	16	100.0	0.0